

令和5年度 第3回伊豆市地域公共交通会議 議事要旨

日時：令和6年1月31日（火）午後2時00分～

場所：修善寺生きいきプラザ 第1・2会議室

出席者：委員19名（欠席2名）（オンライン1名）

随行2名、事務局3名

1 開会

2 会長挨拶

<会長挨拶>

大変お忙しい時に参集いただき感謝している。

報道でも全国で昨今多く出ているが、公共交通の維持存続は本当に難しいと思っている。

八王子など東京のバスは満員だが9割以上が高齢者。これは満員に見えても受益者負担ではなく東京都が料金を支払っていると思われる。それでも何とかこのような形で高齢者の足が確保されているのだと思う。

伊豆市では自主運行バス等を含めて大きな額を予算化しているが、なかなか乗ってもらえない状況である。今現在黒字の路線でも今後の運転手給料支払いを考えると、もっと乗ってもらわないといけない。私たちは、そして市民の皆さんは、路線バスを維持するという強い思いと覚悟を持っているのかというところを問いかけていかないといけない状況だと思っている。

バス事業者やタクシー事業者の経営努力というよりも、私たち住民がどこまで公共交通を残したいと思っているのかが問われていると思う。行政としてはもっとストレートに市民に訴えたうえで、運行に関わる事業者との協議調整の中で継続する路線、廃止する路線が端的に出てくるのかなと思っている。

人口の社会的動態がプラスになり始めた状況の中で、皆さんのお知恵を借りながらできることをしっかりと進めてまいりたいと思う。

皆さんの忌憚のない意見をお願いしたい。

3 議事

（1）次年度運行に係る協議事項について【協議事項】

- ①地域間幹線系統確保維持改善事業について（県資料1～4、事業者資料1、市資料1、2）
- ②事業者運行路線（単独継続困難）について（事業者資料2、市資料1）
- ③事業者運行路線（退出意向申出）について（事業者資料3、市資料1）
- ④伊豆市自主運行路線の運行について（市資料1、3）

<資料説明>

- ・事務局から資料についての説明
- ・静岡県より県資料1について説明
- ・事業者（バス事業者）より事業者資料1について説明

- ・事務局より市資料1（該当部分（1）－②）、2について説明
- ・事業者（バス事業者）より事業者資料2について説明
- ・事務局より市資料1（該当部分（1）－②）について説明
- ・事業者（バス事業者）より事業者資料3について説明
- ・事務局より市資料1（該当部分（1）－③）について説明
- ・事務局より市資料1（（1）－④）、3、4について説明

<質疑応答>

① 地域間幹線系統確保維持改善事業について

委員：県資料7ページに昨年度との評価の比較があるが、伊豆市内の路線に関しては全てB評価からA評価と昨年より良い評価になっている。他地域はそのままのところが多いが、この要因は何だと考えられるのか。運行事業者さんの方で改善していることなどあれば教えてほしい。

委員（バス事業者）：コロナの回復、特に観光利用の回復が一番大きな要因だと分析をしている。若干人員が下がっている所があるがキロ当たり経費も下がっており、もともとB評価の中でもA評価に近いB評価だったものが、これらの理由によりA評価になったと分析をしている。

会長：将来に向けて維持存続していただきたいと思っている。コロナが落ち着いてインバウンド需要が増えつつある中で静岡県は回復が遅い状況である。さらに三島駅に降りた外国人のお客様は北に向かってしまっている。首都圏及び静岡空港からのインバウンドのお客様に関して、三島駅で降りそこから南へ誘客、そして二次交通としてバスを利用してもらうというためにも頑張りどころと思うので、ぜひ一緒に協力をお願いしたい。

② 事業者運行路線（単独継続困難）及び③（退出意向申出）について

会長：天城高原にバスで行く人があまり多くないということなのか？

委員（バス事業者）：天城高原線については、利用者も減少しているが、もともとの運行自体がかなり安価な形で行っていた。そこに加えて2024年問題として運転手不足への対応も出てきたため、施設側と話し減便によって維持を図ることで決着がついたものである。このように利用状況だけの原因ではないところである。

会長：天城高原と修善寺ニュータウンは光ファイバーの整備によりリタイア層から選んでいただいておりますので人口も増えているので大丈夫だと思ったが、殆ど車で移動されている。そのため伊豆スカイラインを無料にしてほしい、安くしてほしいという別の種類の要望をいただいている。路線バスとしてはこのような形にさせてほしいということである。

委員（バス事業者）：天城高原ゴルフ場の手前の天城縦走登山口では、一般のお客様も多くシーズンによっては増便依頼があり、また、天城高原の別荘地やホテルから要請があった場合は増便を行うなどの対応を取るので、臨機応変に対応していく。

会長：季節もののようなところは柔軟に対応いただければと思う。

④自主運行バスについて

会長：自主運行バスとしてはかなりの数（路線数、便数）で予算的にも大変だが、他市町村ではどの程度の水準で行っているのか？

委員：事業者運賃をそのままにして欠損額を補填するやり方や、全ての経費を自治体が負担して安価な運賃で運行するコミュニティバスのようなやり方など、いろいろなやり方がある。そのため一概には言えないが、伊豆市の自主運行バスの数は多いと思う。

会長：伊豆市は現在、財政的な措置をしている。ただ、合併特例債を地域振興基金として20億円程度確保しておいたものから充てており、かつ、毎年1億円を超える支出をしているので持続性がない。ある程度の余力がある間はまだ良いが、将来的にこのまま維持はできない状況なのでどこかで見直していかないといけない。一気に減らすよりは状況を見ながら少しずつ縮小しなければいけないのではないかとこのところである。

委員：バス運賃の決め方だが、この会議で協議して決める方法もあるようだが、今までそのようなことに触れたことはない。その点はいかがか？（そのような議論はしないのか？）

委員（バス事業者）：協議運賃といった形の決め方もあるが、基本的に事業者として運行している路線については事業者が決めることになるかと思う。伊豆市内の自主運行バスに関しては、同じ区間を事業者路線と自主運行路線が同じ路線を走っており、バスによって運賃を変えることもできなくはないが混乱をきたすため、同じ運賃での運行をお願いしたところである。

協議運賃については10月の法改正において、協議会での決定ではなく、協議会とは別組織を立てて決定することになった。また協議運賃という形で進める場合、その路線に関しての運賃、定期券、回数券、フリーパス等について、全てその組織での決定及びパブリックコメントの実施が必要になる。伊豆市の自主運行バスは、廃止路線代替に関して計画しているところであり、協議運賃はどちらかというコミュニティバスの運賃決定などを想定しているので、伊豆市の自主運行バスの運賃決定にはそぐわないと思っている。

委員：バスの運賃は事業者の賃率等に基づいて距離によっていくらなど、厳しい審査で細かく決められているものだが、協議会運賃とは公共交通会議の場で議論して決定すれば自由に運賃を決めることができるというスキームである。どのようなやり方が良いのかは、地域の実情や利用者のニーズなどによるので一概にどれが良いとは言えないが、100円や200円といった安価な運賃で乗れるようにすれば利用者は増えるが逆に収支率は下がり自治体の負担が増えるということも良くあるケースである。こういったことも踏まえ地域の実情に合ったやり方を選択する必要がある。

委員：そのような諸問題があることは承知しているが、例えば乗り合いバスのキロ単価の決め方は、バスの減価償却、人件費、燃料代等の諸々に加え、会社の経営状況によって加減ができてしまう。事業者の経営状況に関して決算書まで確認して市として適正な運賃だと判断しているのか？

事務局：決算書までは見ていないが、昨年12月議会でもキロ単価の根拠についての議論があり、その際にも運行事業者さんから運送費、一般管理費、営業費等の詳細の説明資料を出してもらい、それを議会でも提示したうえでキロ単価の構成について説明させていただいた。そのあたりの透明性については、できる限りの資料や算出根拠を運行事業者さんから出してもらい、金額の監査をしていきたいと思っている。ただ、運行事業者さんのキロ単価は、伊豆市内だけでなく事業者が運行するエリア全域となる伊豆半島全体でのキロ単価になるため、膨大な資料となりどこまで精査できるかの難しい。算出根拠や説明はしっかりと受けて進めたいと考えている。

委員：昨年の4月から中伊豆路線の運行を新しい運行事業者さんで行っていただいているが、4月に設置したバス停を1年経たないうちに新規のものに設置しなおしている。これにも経費が掛かっていると思われ、このようなことを見るとキロ単価についてももう少し考えて決めた方が良いのではないかと思い発言した。

会長：市民の皆さんの公共の足なので、料金設定等これからも協議させていただく。距離が影響するローカル線（鉄道、バス）や水道事業等は、距離が長くて人口密度が低い田舎は非常にきつい。まともにやれば当然高くなることをどこまで抑制できるかということである。バスだけの課題ではなく、伊豆市の財政措置としてどこにどのように手当をしていくのが良いか、これから相当厳しい判断になっていくと思っている。行政として何を行うべきか、これからも続く構造的な課題なので、市民の皆さんには、機会があればより包括的な視点から説明する必要があると感じている。

<審議>

- ・異議なし、承認

（2）自主運行バス運行基準案に対するパブリックコメントの実施について【報告事項】

<資料説明>

- ・事務局より資料4について説明

<質疑応答>

- ・質疑なし

4 その他

会長：鉄道、タクシーの状況をお聞きしたい。

委員（鉄道事業者）：コロナが5類移行になってから半年以上たち、インバウンド含め観光需要増えると思っていたが、ずっと横ばいの状況が続いている。定期券の通勤通学に関してはコロナ前の90%程度まで戻ってきているがそこからは伸びはない。テレワークが定着したのかなと見ている。定期外（日々利用、観光等）のお客様はコロナ前の85%程度と定期利用のお客様より戻りが悪い。三島駅では新幹線からかなり外国人のお客様が降りるのだが、そこから富士急バスに乗って富士河口湖方面に行ってしまうというのが最近の傾向である。夏の観光需要も箱根熱海までは来ているが伊豆にまで入ってきてもらっていないというのが状況である。とはいえ

JRの踊り子号（東京駅から2本）に関してはコロナ前よりお客様が増えている。伊豆長岡駅が減っている分、修善寺駅が増えており、踊り子に関しては、修善寺駅は潤っている状況である。踊り子はJRの車両のため車両使用料をJRに支払うことから、踊り子単体としては赤字だが、東京駅や品川駅、横浜駅というターミナル駅に「修善寺行き」という行先が出ることに對する広告料だと思っているので、赤字でも続けていかなければと思っている。

会長：東京駅に「修善寺行」はぜひ残したい。ローカル鉄道を使った小さな旅というようなものを地域の中で行っていければと思っている。引き続き宜しく願いたい。

会長：タクシー業界は今相当厳しいと思うがいかがか。

委員（タクシー事業者）：コロナ後から少し良くなってきたと思っていたが、年始の地震以降またお客様が来なくなっている。そのような中でライドシェアという話も出ていたが、これでライドシェアが出てくるとどうなってしまうのか、というのが意見である。4月からはタクシー会社がライドシェアを管理するというようなことも言われているが、具体的にどのようにしていくのか、東京での開始を見ていきたい。

会長：ライドシェア導入によってタクシーが減る状況になるとは思っていないが、ぜひタクシー維持もしてほしいと思っている。インバウンド需要では、高単価でもタクシーは使われると思う。県としても静岡空港の直行便があった中国インバウンドに力を入れてきたと思うが、中国をはじめとしたアジア以外の北米も含めた富裕層をターゲットにしていくよう、改めて県にも伊豆半島全体でアピールしていきたい。

委員：共同運行している修善寺温泉場線について、事前にお客様にはお伝えしているが、本日の運行を持って運行取りやめ、手続き後3月をもって路線を撤退とさせていただく。コロナ明け続く乗務員不足に加え、4月以降の制度改正に伴い、休憩時間を適正に取れるかという観点から難しいと判断した。昭和初期から多くの方に利用していただいた路線であり心苦しいが、今後に関しては新しいバス事業者さんの方で時間や本数など見直しいただけるとのことなので引き続きご利用をお願いしたい。

会長：高齢者に多くバスに乗ってもらいたいが、交通系ICについて聞きたい。クレジットカードのセキュリティはとても優れていると思われ、高齢者ほどバス利用時に利用してもらった方が良いと思うが、高齢者への導入策について何か知恵はないか？

委員：バス事業者さんなどにも出張販売など行ってもらったが、一定程度売れたと思うが行き届いたとは思えない。今後はICカードよりスマホの中のアプリ決済が主流になってきており、カード販売を積極的に行わないというのが実情だと思う。

委員（バス事業者）：パスモ、スイカなどICカードの「板」の販売は半導体不足でできないような状況にある。アプリは可能だがその点が高齢者には難しい。また、市が代理で購入して高齢者に配布するという方法は取れない。また事例があれば報告したい。

委員：順天堂大学病院直通バスについてお伝えする。7市6町及び交通事業者、静岡県等で伊豆地域公共交通活性化協議会を設置し公共交通活性化に向けて議論している。協議会のなかで、収支が極めて厳しい順天堂大学病院直通バスについて何とかできないかという検討を始めた。このバスは朝6時に南伊豆町役場のある下加茂を出発し、下田駅、河津駅を通り、湯ヶ島、天城を通り順天堂大学病院へと患者とお見舞

い客を乗せるバスである。本年度はとにかくニーズ調査に力を入れている。今年度中に何ができるかのアイデア出しを行う予定である。R6年度以降、取り組みが具体化したら改めてこの場でお伝えする。

事務局：次回公共交通会議は3/21を予定している。

6 閉会